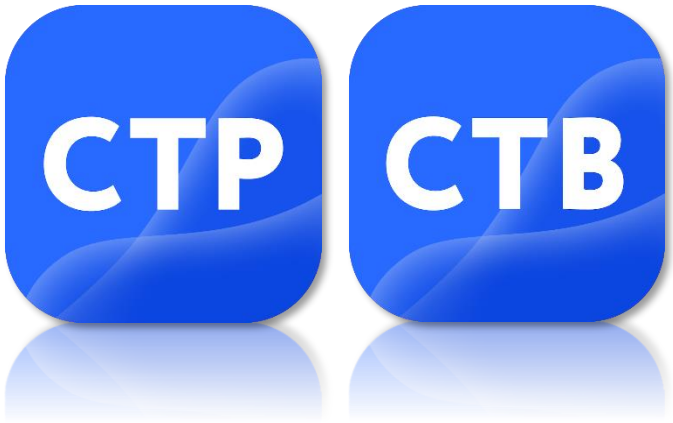
CREATORS' CLOUD



Catalyst Prepare/Catalyst Browse

(Ver.2025.3)

クイックスタートガイド

■ はじめに

Catalyst Prepare/Browse は、撮影映像を確認し、編集前の下準備を行うデスクトップアプリケーションです。
完成コンテンツの閲覧確認や、フォーマット、映像に付随するメタデータ情報の確認にも利用することができます。
撮影された映像クリップに対して OK/NG/KEEP フラグを付けたり、クリップのタイムコードにマークポイントを付与することで、ノンリニア編集作業の検索効率を向上させることができます。これにより、後段の編集プロセスがよりスムーズに進行します。
また Catalyst Prepare/Browse は、映像クリップの補正機能も充実しており、映像の補正、色調整、多種多彩な映像フォーマットへの変換（トランスコード）、各種エクスポート機能を搭載しております。

尚、Catalyst Prepare は Catalyst Browse よりも高精度な調整機能を搭載しており、例えば、補正を適応したクリップの一括エクスポート機能（バッチ処理）、メディア管理を行う機能や XAVC や Avid DNxHD など対応フォーマットが追加されています。一部の機能は Catalyst Browse でもその機能を体感することができますが、ファイル出力ができないなど制限があります。

このクイックスタートガイドでは、Catalyst Prepare/Browse に関する PC の準備～搭載する機能の利用まで、簡単な利用手順について説明します。

■ 利用までのステップ

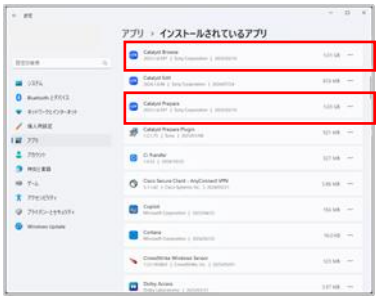
Catalyst Prepare/Browse（以下、Catalyst アプリ）は、Windows OS および macOS に対応しています。Catalyst アプリをインストール後、初回利用時にはインターネットの接続が必要です。オンライン状態で作業を行ってください。

1. Catalyst アプリをインストールする

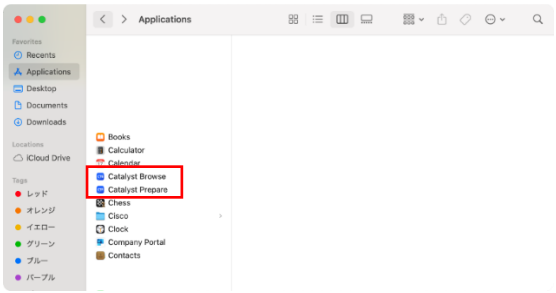
ソニーWeb サイトに準備されている各 OS に対応したインストーラーをダウンロードします。
ダウンロードサイト URL：
https://www.sony.net/catalyst/download?cid=hlp-tutorial-browse1

ダウンロードしたファイルをダブルクリックし、画面の指示に従って、PC にインストールします。
※ 最新版の「リリースノート」にて「4.0 動作環境」と利用する端末仕様を確認の上、インストールを行ってください。

インストール完了後は、PC 上にインストールされていることを確認してください。
- Windows は、「アプリ」→「インストールされているアプリ」の一覧から確認いただけます。
- macOS は、「アプリケーション」で確認することができます。



Windows「アプリ」にて確認



macOS「アプリケーション」にて確認

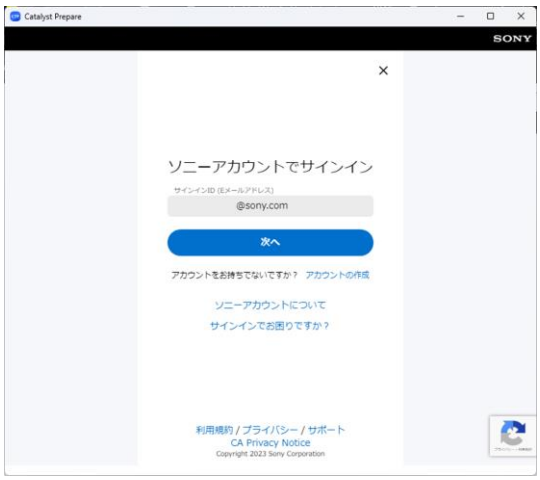
2. Catalyst Prepare を利用する場合は有償契約を行う

下記サイトより、有償プランの契約を行ってください。
契約にはソニーアカウントが必要です。お持ちでない場合は「アカウントの作成」から発行してください。尚、初回に限り初月は無料でご利用いただけます。
https://creatorscloud.sony.net/app/plans-purchase-catalyst?cid=hlp-tutorial-browse1

3. Catalyst アプリを起動する

Catalyst Prepare/Browse アプリをクリックし起動します。尚、Catalyst Prepare ではアプリが開いた後に、ソニーアカウントでサインインが必要です。

※ 2025 年 3 月 28 日をもって、Sony Creative Software (SCS)アカウントでの利用は終了しました。
SCS アカウントをご利用のユーザーはご注意ください。



アプリを開いた後、サインイン画面

■ 主な機能のご紹介

それでは、具体的な Catalyst アプリの操作について紹介します。
Catalyst アプリには豊富な機能がありますが、本クイックスタートガイドで紹介する操作方法は以下の通りです。必要な作業に絞ってご確認いただくことも可能です。

Catalyst アプリの画面の見方を知りたい

１．画面全体の紹介

メディア/クリップを管理したい

２．メディア・クリップの管理

撮影した映像を確認したい

３．再生操作
４．メタデータの確認・追加

映像の調整を行いたい

５．クリップの映像調整機能
６．クリップの色調整機能

映像ファイルの出力を行いたい

7．クリップの出力操作

クリップの音源分離を行いたい

8．音源分離機能

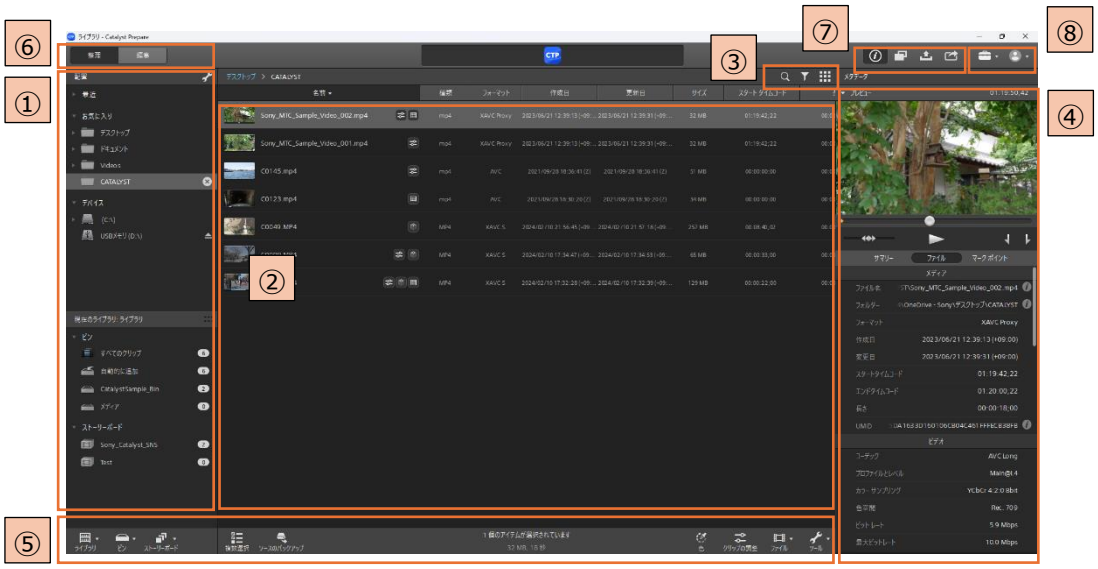
その他の使い方を知りたい

9．その他の便利機能

詳細な操作、機能は各アプリの「ヘルプ」をご確認ください。また、操作でお困りの際は、サイトに掲載する Q&A やお問い合わせも活用いただけます。URL などアクセス先は「トラブルシューティング」に記載します。

1. 画面全体の紹介

Catalyst アプリ操作画面の全体像をご紹介します。
下図はアプリを開いた際の標準画面となります。クリック操作により各種操作画面に移動します。
また、右クリックでサブメニューが表示されます。



アプリ標準画面（Catalyst Prepare 例）

① メディア/フォルダ管理

PC 上のファイル保存場所を表示します。外部メモリー/HDD 媒体が表示されます。
Catalyst Prepare では、Bin やストーリーボード編集関連を管理できます。

② クリップリスト表示

フォルダ内のクリップを表示します。クリップをダブルクリックすると映像を大画面で再生できます。

③ 検索・表示設定

②に対して、クリップ名での検索やフィルタによる絞込、画面表示の設定ができます。

④ メタデータ（映像情報）表示

クリップのメタデータを閲覧できます。映像・音声フォーマットや撮影カメラやレンズ情報、GPS 情報など、汎用的な PC ブラウザでは閲覧することができない、詳細な情報を表示することができます。

⑤ 制作ツール関連の操作（ツールバー）

フォルダやクリップに対する操作を行うツール群です。ツールは画面遷移に沿って自動的に切り替わります。
クリップの調整や色調整のほか、多くのツールが下部に表示されます。

⑥ **メディア管理 / 映像操作の画面切り替え**

ファイル管理操作（整理）と編集画面を切り替えることができます。

⑦ **ファイル出力操作**

クリップのコピー、映像調整後の出力、トランスコード、Ci やネットワークストレージへのアップロードなどプレビューや調整機能を利用した後の出力（書き出し）画面に切り替える際に利用します。④メタデータ表示画面を切り替えて作業を行うことができます。

⑧ **設定 / アカウント管理**

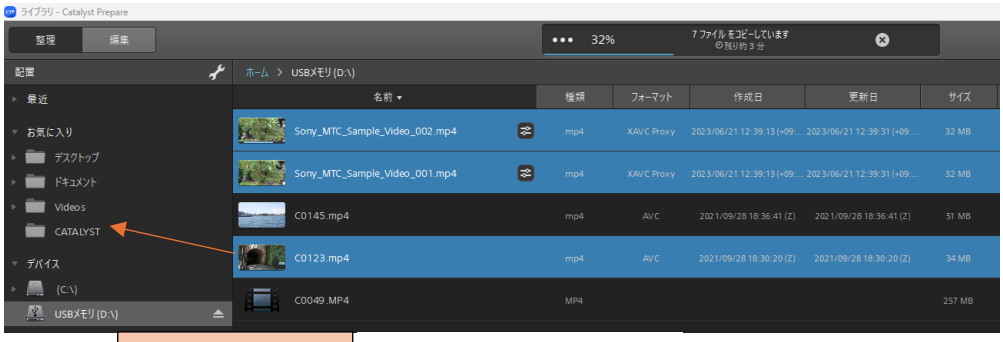
ビデオ処理デバイスの設定、外部モニターなどアプリの設定ができます。

アカウントのサインイン/サインアウト、ヘルプやサポートへのお問い合わせなどアカウント機能があります。

2. メディア・クリップの管理

2-1.クリップの移動/コピー操作

Catalyst アプリでは、撮影したメモリーカードや、外付メモリー/HDD 媒体を管理することができます。
撮影後のメモリーカードから PC へのコピーも、ドラッグ＆ドロップ操作で可能です。



クリップ管理画面

2-2. 利用頻度の高いフォルダのお気に入り登録

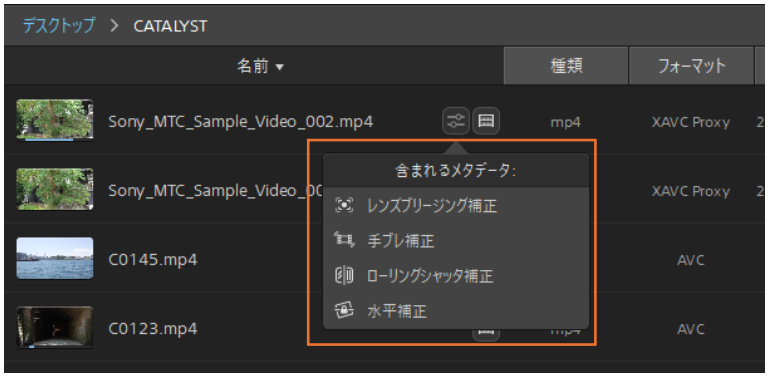
PC 上でよく利用するフォルダは、「デバイス」にあるフォルダをアクティブにした状態で画面中央下の右手にある



から、「お気に入り」に登録することができます。次回以降のフォルダアクセスがスムーズになります。

2-3. 撮影メタデータ有無の確認

また、画面中央のクリップリストでは、クリップ名付近にアイコンが表示されます。ソニー製カメラで撮影した際のカメラ/レンズや撮影設定におけるメタデータの有無が確認できます。補正方法は「5.クリップの映像調整機能」で説明します。



メタデータアイコン（クリップリスト画面）

2-4. Bin(ビン)管理（Catalyst Prepare のみ）

Bin を用いて、複数メディアにまたがるクリップの管理が可能です。仮想フォルダとして利用でき、編集前のデータ整理に活用いただけます。クリップ移動/コピー同様に D&D で操作できます。Bin フォルダにまとめたデータ群はまとめてコピー出力や、ノンリニア編集ソフトウェアに取り組む際のプロジェクトファイルとして出力することもできます。

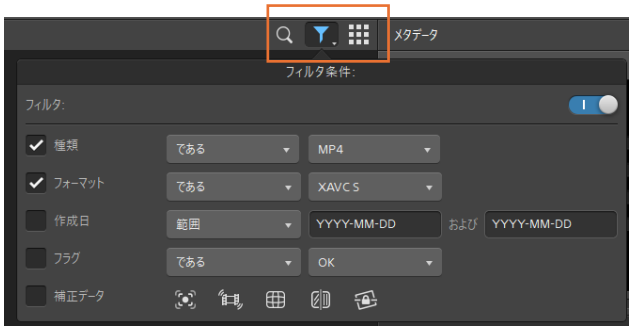


ライブラリ画面（メディア/フォルダ管理下部）

2-5. クリップ検索パネル（クリップの絞り込み）

必要なクリップを探す際に、クリップ名やフォーマット、撮影日時などからフィルタ（絞込み）が利用できます。


を押すことで、クリップ名での検索が可能です。

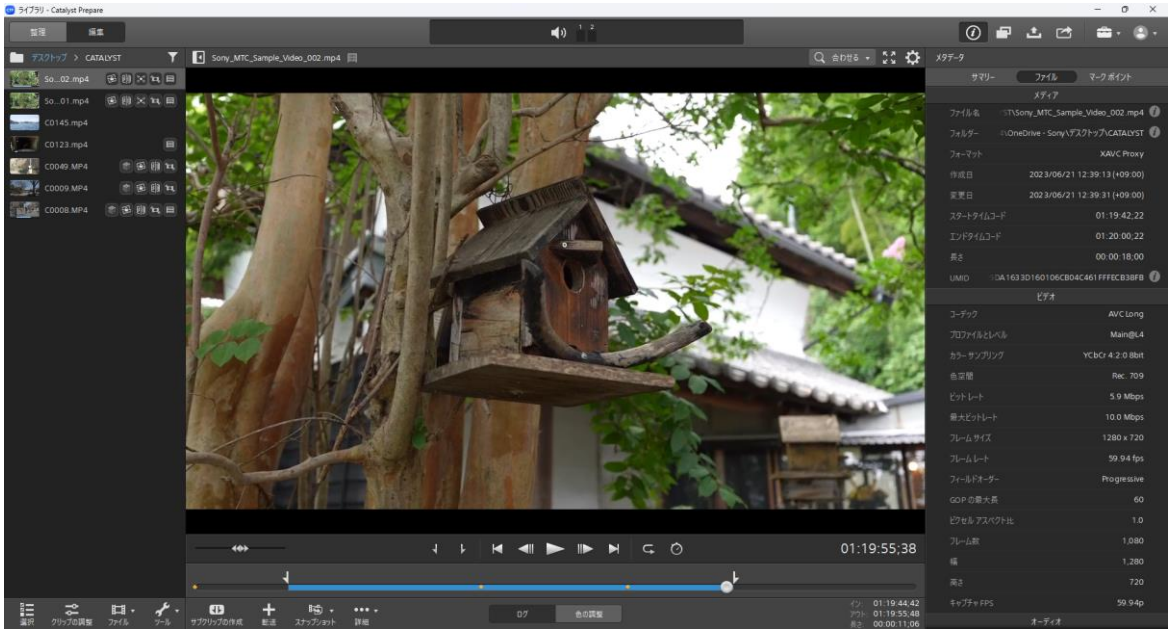


クリップ検索パネル（クリップリスト画面右上）

3. 再生操作

クリップ一覧で、再生したいクリップをダブルクリックすると、映像の再生画面に切り替わります。
Catalyst アプリでは、フレーム単位で高品位に再生操作が可能です。

3-1. 再生操作（マウス/キーボード操作）



再生画面

再生操作は、画面中央下部のアイコンで操作可能です。また、ノンリニア編集ソフトウェア同様に、キーボードのショートカットがご利用いただけます。

（例）

再生/一時停止	スペースキー
シャトル再生	J/K/L
フレーム操作	←/→
マークポイント	I/O
マークポイントの追加	E

※　詳しくはヘルプの「キーボード ショートカット」や「ジェスチャ」をご確認ください。

3-2. 再生設定

ビットレートの高い 4K や RAW フォーマットで再生が重たくなる場合は、再生設定により映像再生の滑らかさや解像度など、用途に合わせて変更することができます。



再生設定画面（映像操作パネル右手）

3-3. 表示設定

映像の表示設定は画面上部中央から右にある表示設定より変更ができます。表示倍率、水平/垂直フリップやセーフエリアの表示やアスペクト比変更のためのマスキングなどが設定できます。



表示設定画面（再生画面右上）

4. メタデータの確認・追加

クリップ管理や映像再生画面では、操作画面の右側にメタデータが表示されます。タブの操作により情報を切り替えることができます。後段のノンリニア編集作業の前に、利用するファイルや利用したタイムコードのポイントに対して、情報を記録することができます。

※フラグ情報やマークポイント（ショットマーク）は、編集ソフトウェア毎に表示可否や名称が異なります。
各編集ソフトウェアメーカーのマニュアルをご確認ください

ファイルタブ(下図左)

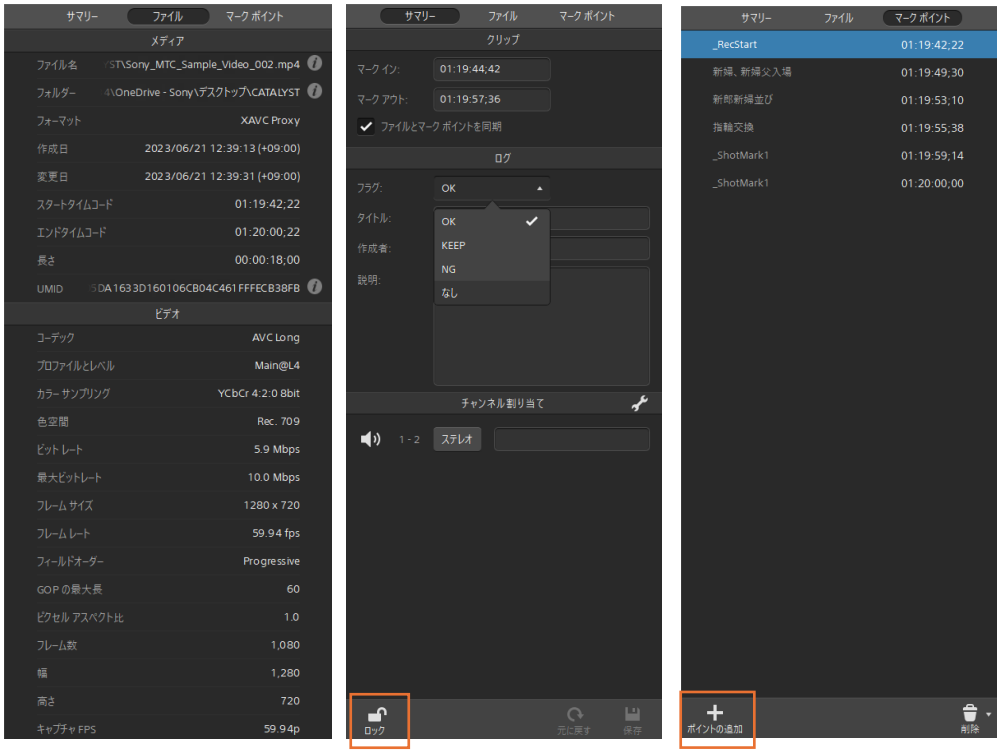
映像フォーマットやカメラ/レンズの機器情報、撮影設定の詳細情報（アクイジションメタデータ）を閲覧することができます。

サマリータブ(下図中)

クリップに対する OK/KEEP/NG フラグを追加することで、クリップ一覧から検索しやすくなります。また、マーク IN/OUT 情報もクリップに記録することができます。下部のロックボタンでロックを解除して操作してください。

マークポイントタブ(下図右)

映像のタイムコード情報に、マークポイント（マーカー）を記録することができます。撮影中に記録したショットマークも表示できます。映像を閲覧しながら、下部にある「ポイントの追加」から追加できます。



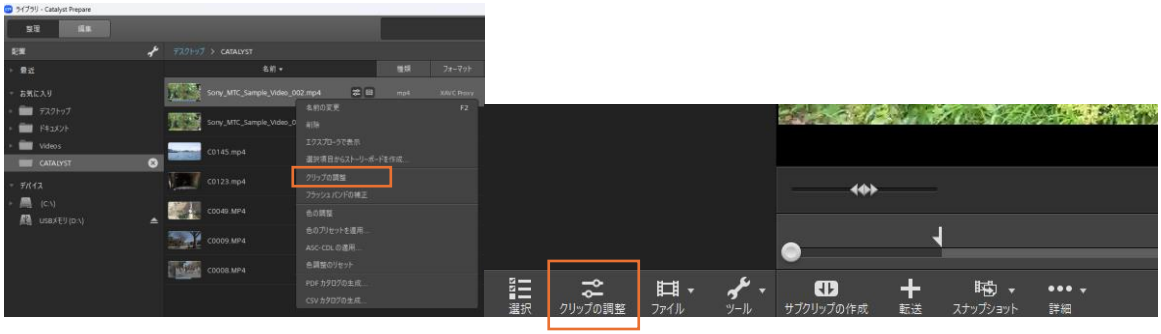
各メタデータの表示画面

5. クリップの映像調整機能

ソニー製カメラで撮影したクリップに対して、カメラ/レンズのメタデータを用いた高速で高品質な映像調整機能がご利用いただけます。

クリップリスト画面の場合：コンテンツを選択し、右クリックメニューから「クリップの調整」を選択する

再生画面の場合：画面左下にある「クリップの調整」を選択する



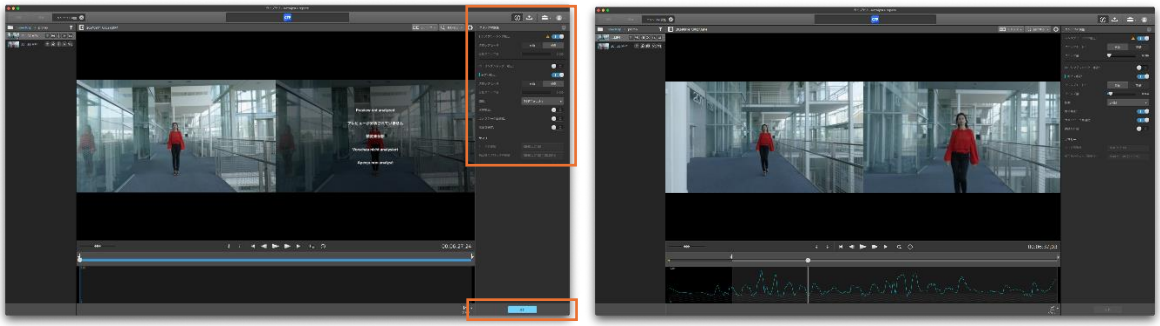
クリップリスト画面　　再生画面（再生下部）

5-1. クリップの分析

クリップの調整は専用画面に切り替わります。調整を行いたい項目を選択し、「分析」を実行します。

オリジナル映像と、変更後の映像を比較しながら調整することができます。

※ 分析後の映像が黒画面となる場合、操作端末のパフォーマンスが不足している場合があります。



分析前　　分析後

5-2. 主な調整内容

主な映像の調整機能は以下の通りです。

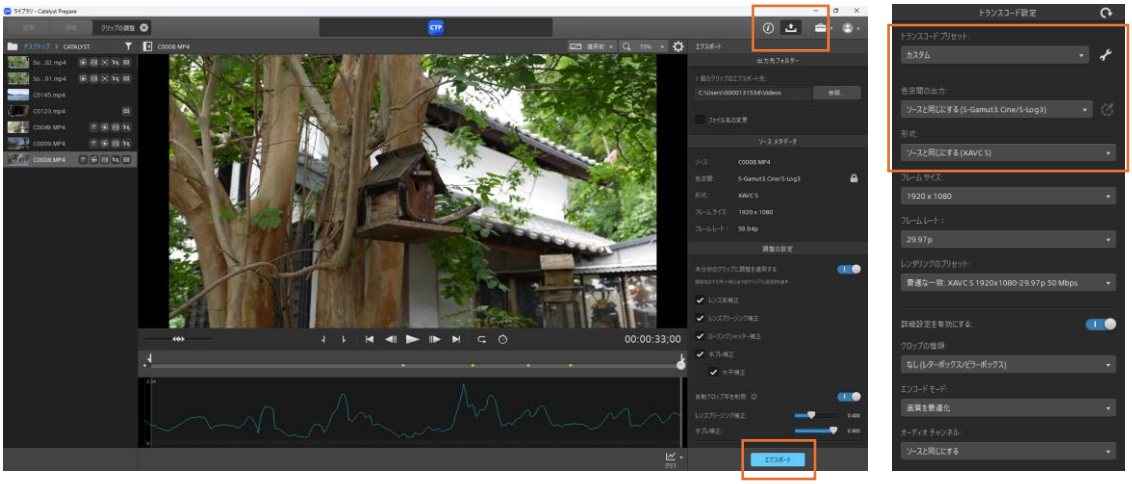
尚、Catalyst Prepare ではマニュアルで設定できる項目が多くあります。

一方で、Catalyst Browse では自動調整のみとなる、プレビューのみできるなど、一部機能に制限がございますので予めご了承ください。

レンズブリージング補正	フォーカスが変化したときにレンズの画角や焦点距離が変動する現象を補正します。
レンズ歪補正	撮影時のレンズ歪が補正できます(X-OCN フォーマットのみ)
ローリングシャッター補正	カメラの動きによって生じるローリングシャッター歪を補正し低減します。
手ブレ補正	手持ち撮影時などに起こる揺れ（手ブレ）を補正し、映像の揺れを抑えます。本バージョンでは新たに、手ブレ補正強度の調整機能およびクロップ量を最小限に抑えるフレーミング最適化機能を追加しました。
水平補正	傾いた画像を水平に保つように補正することができます。

5-3. 調整内容の出力

調整した内容をクリップに適用する場合は、「エクスポート」を実行します。
色空間や形式をオリジナルから変更しない場合は「ソースと同じにする」を選択します。この際、フォーマットの変換（トランスコード）も可能です。制作形態にあわせて選択してください。

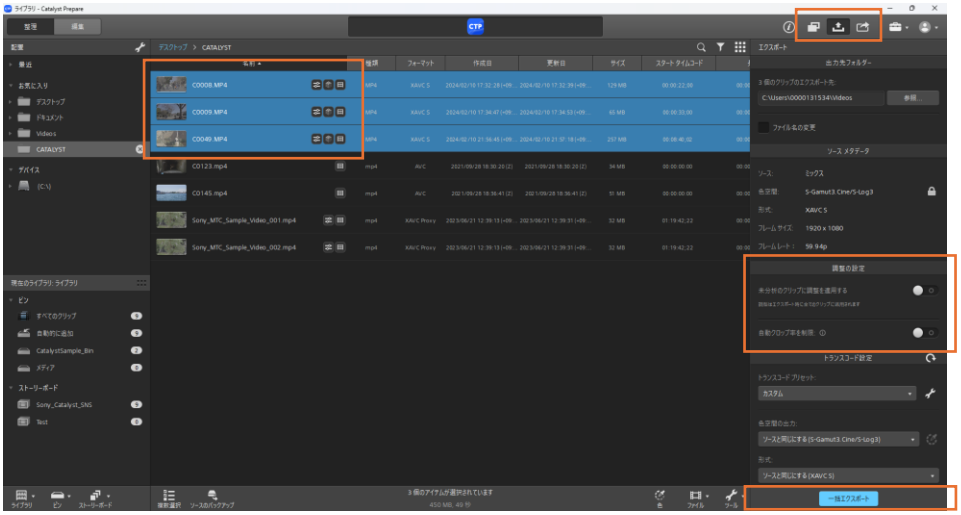


クリップ調整後のエクスポート操作

5-4. 複数クリップへのバッチ処理（Catalyst Prepare のみ）

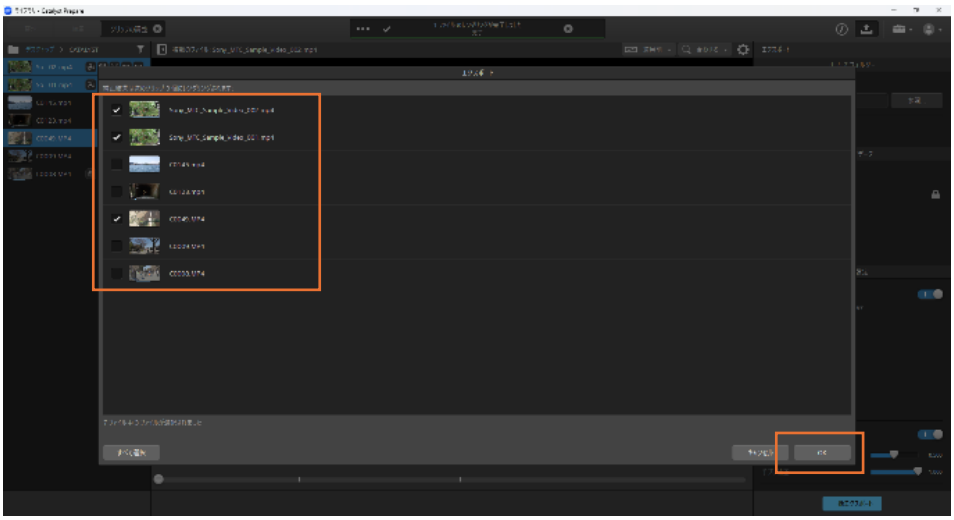
出力する際、複数のクリップの分析・調整作業をした後に、まとめてエクスポートを実行（バッチ処理）することで、効率的に作業を行えます。本機能は Catalyst Prepare でユーザーの利用頻度の高い便利機能です。（Catalyst Browse では一つ一つ作業します）

クリップを複数選択した状態にすると、エクスポート設定の「エクスポート」ボタンが「一括エクスポート」ボタンに切り替わります。尚、「調整の設定」を利用する事で、未分析を含む全てのクリップに対して補正を一括で適用することも可能です。



バッチ処理機能（クリップリスト画面の例）

「一括エクスポート」ボタンを押すと、画面が切り替わり、選択したクリップの確認をします。「OK」を押すとエクスポートが実行されます



バッチ処理機能　確認画面

6. クリップの色調整機能

HDR/SDR の調整、LOG の調整など、撮影後色調整作業が Catalyst アプリで行えます。

クリップの再生画面の中央下「色の調整」を選択し、作業画面に移ります。

なお、色調整を行う際は、事前に Catalyst アプリの設定内「カラーマネジメント」から、プレビューの空間や外部モニターなど作業環境の設定をしてください。



色の調整　操作画面

① S-Log で収録した場合には画面右上「色空間」の「ソース」を変更して作業を行います。

② ルックの項目では、ソニーカメラで撮影されたクリップに埋め込まれた LUT を適用してプレビューするか、任意の LUT を適用するかを選択できます。「ソース設定」から、EI モードを選択します。

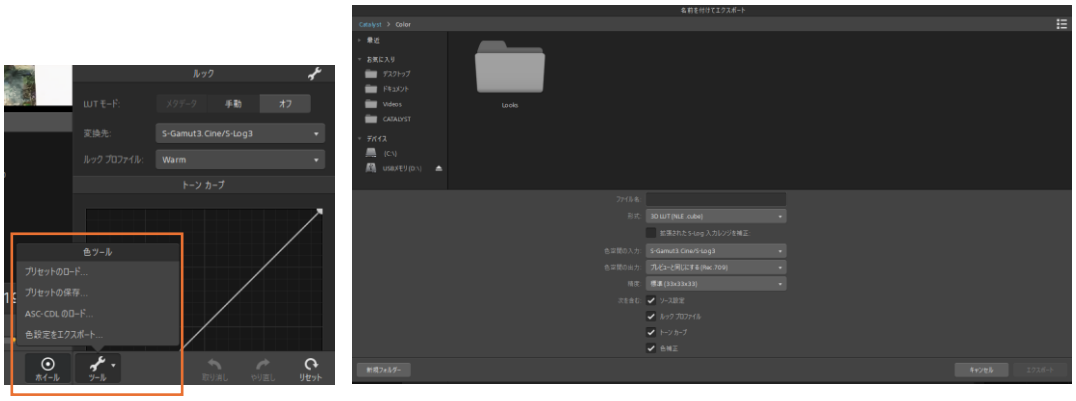
■EI モードの選択

メタデータ：カメラの設定に基づく露出メタデータを自動適用します。

手動：露出を手動で設定します。クリップ全体の露出を調整できます。

オフ：露出の調整をオフにします。元のままの感度が適用されます。

また、ツールからプリセットのロード/保存や、色設定ファイルをエクスポートし、カメラやノンリニア編集ソフトウェアで活用することができます。



色ツール関連の操作

■LOG 撮影について

LOG に関する情報は下記サイトを活用ください。

クリエイターズヘルプガイド：https://helpguide.sony.net/di/pp/v1/ja/index.html

7. クリップの出力操作

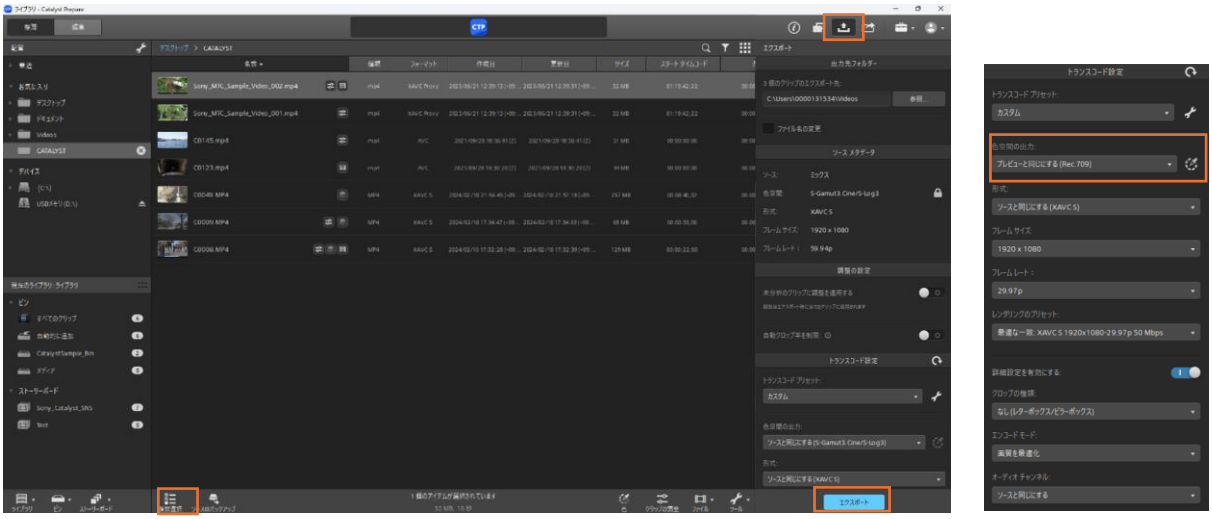
Catalyst アプリで行った作業をクリップに反映してファイルとして出力します。この時、フォーマット自体の変更も可能です。出力したいクリップを選択して、Catalyst アプリ右上の「トランスコード」アイコンを選択します。ここで任意の設定を選択し、右下の「エクスポート」ボタンを押すことで出力可能です。

7-1. 複数クリップを一括で出力する

複数のクリップを一括で出力したい場合は、出力したいクリップを複数選択してください。この時、トランスコード画面の右下のボタンが「一括エクスポート」に変わり、選択したクリップ全てが出力されます。
クリップを複数選択するには、キーボードの Shift または Ctrl(Command)ボタンを押しながらファイルを選択、もしくは画面下の「複数選択」ボタンを押して選択してください。
クリップの映像調整を含めた出力は「5-3. 調整内容の出力」をご参照ください。

7-2 色調整の効果を含めて出力する

色調整された映像を出力するには、トランスコード設定の「色空間の出力」を「プレビューと同じにする」にしてください。これにより、プレビューで見えている色補正された映像がファイルとして出力されます。
「ソースと同じにする」を選択した場合、色補正は出力ファイルに含まれませんのでご注意ください。



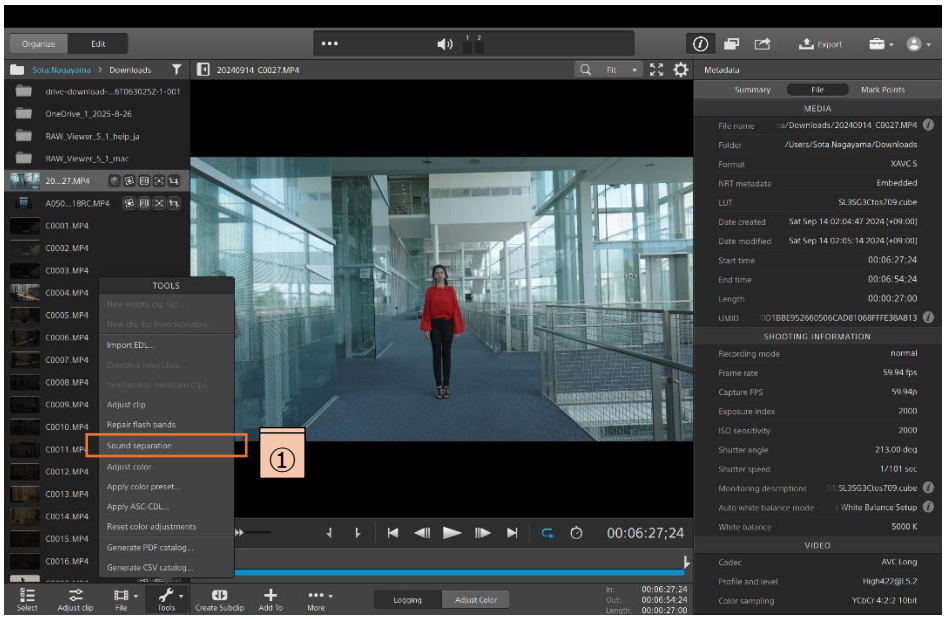
クリップを出力する操作

8. クリップの音源分離

2025 年 10 月にリリースした Ver.2025.3 では、新機能として動画クリップの音源分離機能を搭載しました。この音源分離機能では、撮影したクリップの音声を話者、風音、環境音それぞれに分離し、新たな音声クリップ（WAV）を作成します。作成されたクリップは、ノンリニア編集機などでボリューム調整などを行う事が可能です。

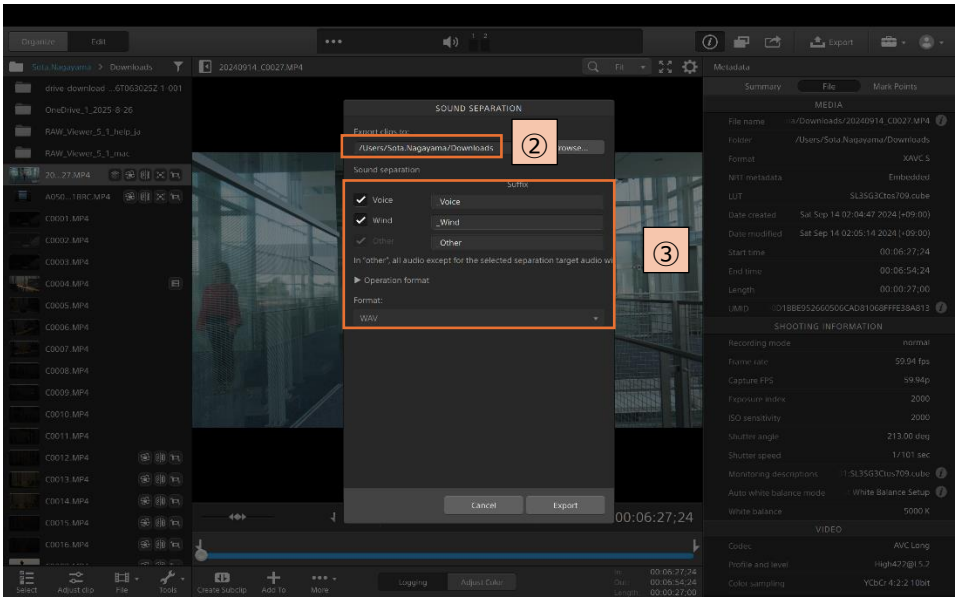
主な活用シーン：街頭撮影時の環境音のみゲインを下げたい、風切り音を削除したい、など

① クリップを選択し、画面下の「ツール」から、「音源分離」を選択します。

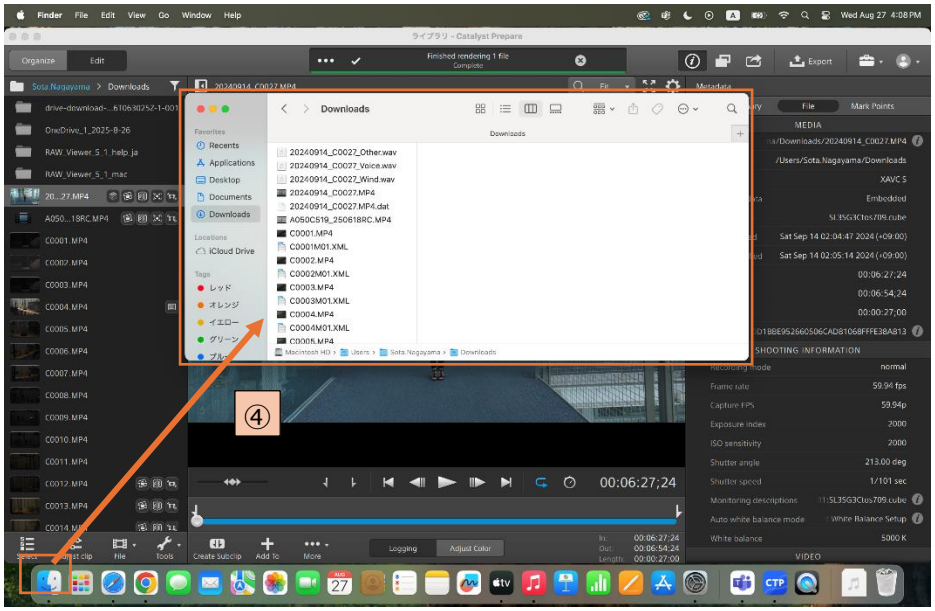


② 出力先を選択します。

③ 話者、風音の出力したい項目に「✓」を指定します。出力フォーマットは WAV が自動指定されます。

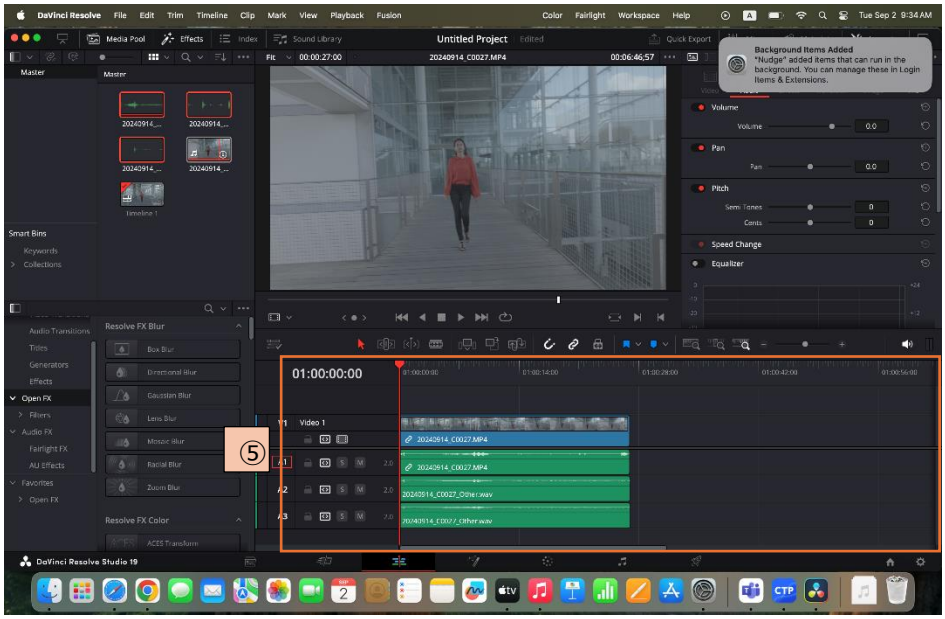


④ 出力が完了すると、指定たフォルダに WAV が作成されます。出力結果をご確認下さい。



⑤ ノンリニア編集機のプロジェクト上で、必要なクリップをタイムラインにのせます。WAV クリップ毎に音量など調整を行います。

【DaVinci Resolve の UI 例】



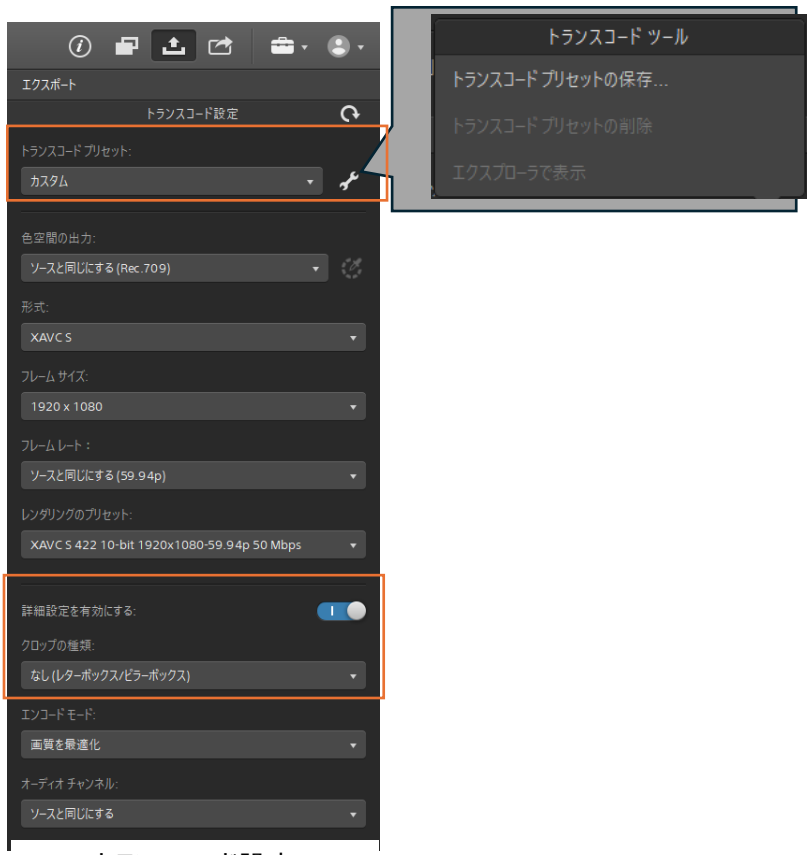
9. その他の便利機能

これまでご紹介した機能のほかにも、Catalyst Prepare/Browse には多くの機能があります。その中からいくつか便利な機能をご紹介させていただきます。

9-1. トランスコード

Catalyst アプリはトランスコーダを搭載しています。ソニー映像フォーマットの正確な出力や、他社コーデックへの変換に活用いただけます。
その他に、「3.再生操作」の表示設定で行ったマスキングを用いて、クロップの種類から「マスキング率を使用」を選択することでオリジナルの映像から、1:1 や 9:16 などアスペクト比を変更したトランスコード出力をすることもできます。

Catalyst Prepare では、利用頻度の多いトランスコード設定のプリセットを保存することができます。設定ファイルは複数作成でき、端末に保存することができます。また Catalyst Prepare では Avid DNxHD フォーマットが追加されております。Catalyst アプリは多くのフォーマットを採用しており、各種フォーマット間のエンコードとデコードが可能です。対応フォーマット一覧は「ヘルプ」をご覧ください。



トランスコード設定

9-2. ストーリーボード編集

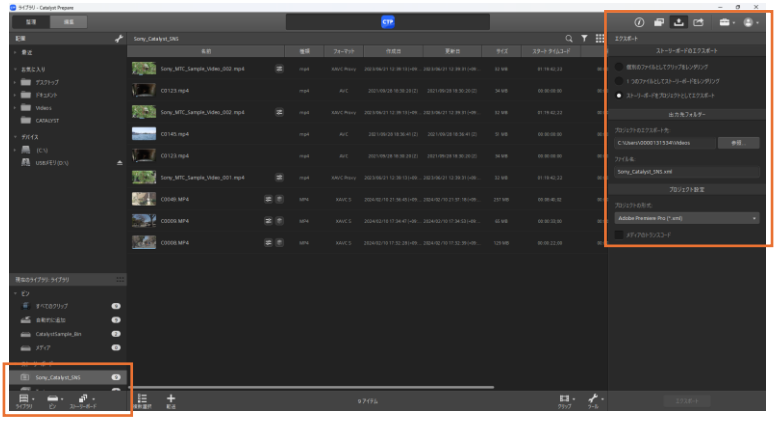
Catalyst Prepare ではストーリーボードを用いて、撮影後のカット編集と各種クリップ調整をまとめて作業できます。

クリップ管理画面で、ストーリーボードフォルダにプロジェクトで利用したいクリップをドラッグ＆ドロップします。
ストーリーボードをダブルクリックすると、ストーリーボード編集画面が開きます。
クリップの動画やサムネイル一覧を確認しながら、クリップの並び替え、必要なカットの IN/OUT 点の切り出しや色調整が行えます。



ストーリーボード 編集画面

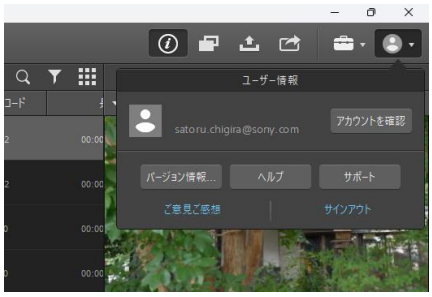
完了後、クリップ管理画面の「エクスポート」から、編集ソフトウェアのプロジェクトファイルとして出力することができます。ノンリニア編集ソフトウェアで開くと、タイムラインが準備できた状態で編集を開始できます。ストーリーボードフォルダに入れたクリップに対して手ブレ補正などクリップ調整もまとめて行えます。



ストーリーボード エクスポート操作

■ トラブルシューティング

操作中に不明点がある場合や、サポートが必要な場合は、画面右上「ユーザー情報」から、「ヘルプ」や「サポート」を活用ください。ウェブヘルプでは最新のヘルプ情報をご確認いただけます。



ユーザー情報



ヘルプ（オンライン）

また、実行で問題が発生する場合は下記サイトをご確認ください。対応方法の記載がある場合があります。
上記、ヘルプやサポートにもアクセスいただけます。

■Q&A およびサポートチームへの問い合わせ先
https://www.sony.net/catalyst/help

それでは、Catalyst Prepare / Browse をご活用ください！

発行元：ソニー株式会社
本資料には商標や登録商標に(TM)、(R)マークは明記しておりません。
Avid および DNxHD は、米国およびその他の国における Avid Technology, Inc. の商標または登録商標です。